

保育所待機児童対策について

1 現状と課題

市内保育施設は公立、民間合わせて38施設を整備し、1,868人の定員を確保していますが、令和7年度の待機児童は、1歳児が14人、2歳児が1人、計15人発生し、3歳児以降の定員に不均衡が生じていることから、保育所等の整備による定員確保が必要な状況です。

単位：人

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
R7認可定員	190	316	350	333	338	341	1,868

R7認可定員 2歳児 — 3～5歳児 17人 12人 9人

2 保育所の整備

待機児童等の課題を解消するため、認可保育所2施設を整備するとともに、認定こども園の改築、公立保育所の再整備により定員拡充を図ります。

【需要量】

単位：人

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
R7待機児童	0	14	1	0	0	0	15
認可定員不均衡	—	—	—	17	12	9	38
計	0	14	1	17	12	9	53

【供給量】

単位：人

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
①認可保育所	6	10	10	18	18	18	80
②認可保育所	3	5	5	19	19	19	70
③認定こども園	△9	4	2	2	2	2	3
④古新田保育所	0	7	6	4	4	4	25
計	0	26	23	43	43	43	178

① ②：令和8年度開所 ③：令和8年度拡充 ④：令和9年度拡充

3 整備の効果

待機児童の解消を図るとともに、全ての年齢で次年齢の定員数が上回り、定員の不均衡が解消されます。

【需要と供給の比較】

単位：人

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
供給量-需要量	0	12	22	26	31	34	125

【認可定員】

単位：人

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
整備前	190	316	350	333	338	341	1,868
整備後	190	342	373	376	381	384	2,046